

内閣府
特命担当大臣表彰
奨励賞

仙台市推薦

特定非営利活動法人 せんだいアビリティネットワーク

(宮城県仙台市)

【概要】

➤ 意思表示に高い困難性を持つALS等の進行性神経難病患者等重度障害者の生活の質(QOL)と尊厳を守るため、重度障害者用意思伝達装置等によるコミュニケーションの確立・維持に必要な技術支援を安定かつ継続的に提供するとともに、障害のある方へのIT機器の利活用支援やIT機器を活用した在宅就労支援に取り組んでいる。平成23年5月から仙台市民対応分については、仙台市より「仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター」として業務を受託し支援を行っている。

【功績・功労】

➤ 障害者一人一人にあった意思伝達装置用スイッチの作成や改造の実施

意思の表出が困難な重度の障害者に対し、意思伝達装置等のコミュニケーション機器を活用してもらうため、在宅訪問による身体評価(仙台市障害者総合支援センターとともに実施。)と機器選定とシミュレーション、微細な動き(瞼、額、口周囲、指等)に対応するための個別性の高いスイッチの作成、PC画面調整やソフト作成、障害状況の変化に合わせた機器の仕様の変更等の支援を実施している。



重度障害者に合わせて改良された入力画面



接点が自動で離れるよう工夫を施したスイッチ



手作りスイッチ例
(左)試作版



(右)使用者の要望を反映し衝撃吸収材を張り付けるなど改良を施した完成版

➤ 助成金を活用した意思伝達装置の整備による患者への支援の実施

事業開始時には宮城県内で公的機関に整備された視線入力装置は1台であり、貸出期間など体験機会に限られるなどがあった。そこで、助成金を活用し当法人の備品として整備。整備後は患者自身による体験活動を実施。新規患者への対応として居住している自宅や施設、病院を訪問し、意思伝達装置の機能に関して、本人の希望・使用目的を聞きながら操作可能となるまで指導を継続している。その後、整備した視線入力装置と同じ機種が重度障害者用意思伝達装置として導入に至る事例が発生するなど、助成金を活用した整備の取り組みについて、成果をあげることが出来た。

患者は、意思伝達装置を使ってリアルタイムに介助者と意思疎通を図ることで、介護ケアに安心感を持つことができ、介助する側からも、患者から事前に連絡をもらうことで介助者間でのケアの統一对応ができ、安心してケアに当たれると好評を得ている。

➤ 在宅の重度障害者の就労支援事業の実施

日々の通勤等が困難な重度の障害者を対象にIT講習会を開催。受講生に対する就労機会の確保として在宅での就労可能なHP制作を請け負うなど、重度の障害者の就労の機会づくりに積極的に関与している。